

お茶大での前期

啓明大学
パク ミンジュ
g2590004

4月は、他のことを考える余裕もないほど忙しい日々でした。5月になると、思っていた以上に気分が落ち込むことが多くなりました。しかし6月になると、この生活が少しずつ楽しく感じられるようになり、7月には「ようやくこの場所に馴染んできな」と実感するようになりました。これはきっと、私だけの話ではないと思います。

1学期間のみ留学している学生にとっては、3か月が経った今は試験やレポート、帰国の準備などで忙しくしている時期かもしれません。しかし1年間の留学を選んだ学生にとっては、この3か月を過ぎた今こそが、本当の留學生活のスタート地点と言えるのではないのでしょうか。

私は、必要以上に頑張ることはせず、ありのままの自分で過ごすことが大切だと考えます。「頑張ること」よりも、「楽しむこと」に目を向けるほうが、留學生活を豊かにしてくれると思います。留學当初は、周りの留學生が頻繁に旅行に出かけたり、日本人の友人と積極的に交流している姿を見て、つい自分と比べてしまうことがありました。しかし、そうした比較はむしろ自分を疲れさせるだけでした。

「自分は自分だ」と思い、自分のペースで行動することが何よりも大切だと気がつきました。

実を言うと、最初は「何のために日本に留學に来たのかを明確にしなければならない」という強い決意を持っていました。しかしその考えが、次第に強迫観念のようになり、自分を苦しめるようになりました。そんなときふと、「自分が日本に来た本当の理由は、自分でもまだ知らない何かを見つけるためなのかもしれない」と思うようになりました。それ以来、「正解のない冒険に出ているのだ」という気持ちで過ごすようになり、「正解を見つけなければならない」というプレッシャーから解放され、気持ちが楽になりました。

もし1年間滞在する予定で、会話にある程度自信があれば、日本のサークル活動に参加することをぜひおすすめしたいです。理由は、日本語力が目に見えて向上するのを実感できるからです。

また授業を通して出会った先生の中に、今でも深く感謝している方がいます。精神的に非常に辛かった時期、ほとんどの授業を休んでいましたが、西坂先生の「第二言語教授法演習I」だけは、一度も欠席しませんでした。この授業を通じて、日本語教育や韓国語教育に関心を持つようになりました。もともと「教えるという仕事は自分には向いていないし、楽しくもない」と思っていたのですが、この授業はただただ楽しく、気がつけば自然と学びに没頭している自分がいました。西坂先生には、感謝の言葉だけでは到底足りないと感じています。

